

日本電気協会（電気新聞）が主催する「第11回エネルギー教育賞」の最優秀賞と優秀賞の受賞校が決定した。このほど最終選考委員会（委員長＝有馬朗人・元文部相）が都内で開催された。最優秀賞は、佐伯市立明治小学校（大分県）、札幌市立白石中

学校、兵庫県立洲本実業高校の3校が選ばれた。優秀賞は、小学校の部8校、中学校の部4校、高校・高専の部6校。優秀賞のうち筑波大学付属聴覚特別支援学校（千葉県）には、創刊110周年特別賞が贈られる。（竹松 正志）

第11回エネルギー教育賞受賞校決定

エネ教育は「いま」



各校のレベルが高く、幅広い議論が交わされた最終選考委員会

小学校の部、レベル高く 本紙110周年記念し特別賞も

教える、学ぶ、いまを知る

教育を取り入れていることの組合が支持を集めた。賞辞が聞かれた。「ほかの皆さんが同じような教育ができるように、全国にも広がる視点がある」との指摘もあった。一方、加古川市立加古川中学校（兵庫県）は、生徒の自主性を重んじ、デザインという切り口を持ち込んだことが高く評価された。西東京市立田中（兵庫県）は、生徒の自主性を重んじ、デザインという切り口を持ち込んだことが高く評価された。西東京市立田中（兵庫県）は、生徒の自主性を重んじ、デザインという切り口を持ち込んだことが高く評価された。西東京市立田中（兵庫県）は、生徒の自主性を重んじ、デザインという切り口を持ち込んだことが高く評価された。

エネルギー全体捉えた視点に評価

最優秀校の実践概要

■佐伯市立明治小学校

農業、漁業、林業などの地域産業との結び付きを大切にエネルギー教育を実践。ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を踏まえた学習に努めている。大学や企業のサポートを受けながら、地元の大分県立佐伯鶴城高校との連携を図る。PTAを交えた活動も特長となっている。

■札幌市立白石中学校

横断的な教科学習をカリキュラムの基本に据え、各科の教員が連携する。生徒の自主性を促しながら、リスキリテラシーを重視。リスクとベネフィットをともに認識させ、学習レベルを深めている。原子力発電所での校外学習のほか、放射線教育にも力を入れる。

■兵庫県立洲本実業高校

ものづくりを担う技術者育成の観点からエネルギーや環境問題に取り組んでいる。新型風力発電機の開発のほか、東日本大震災の被災地向けに街路灯設置のボランティア活動を実施するなど、社会とのつながりを強く意識した活動にも積極的に取り組んでいる。

中学校の部は、白石中学校が選ばれた。エネルギーを学ぶ中で、リスキリテラシーを強く意識した取り組みが多く、選考委員が着目。理科を中心にバランスよく横断的な教科学習が展開できている点など、「ハイレベルでクオリティが高い。経験を基にしたボランテニアを実施した取りも話題となった。

高校・高専の部では、ものづくりを大切にした洲本実業高校が受賞した。校内の学問の連携にとどまらず、外部と連携する雰囲気を持っている。今後も連携しながら持ち味を發揮するだろう。継続的に積み重ねていく姿勢がみえ、この声をはじめ、「メテオ」の使い方、情報発信力が「高い」との指摘もあった。さらに、東日本大震災の復興に貢献しよう、技術を通してボランティアを実施した取りも話題となった。

最優秀賞の審査では、小学校の部について、多くの選考委員が各校のレベルの高さを指摘。その中で、特に内容を充実していた明治小学校が受賞した。「地域の5つの代表的な産業、エネルギーがどのように使われているのかという視点で工場見学などをして活動をはじめ、電気だけに限定せずエネルギー全体を捉え、「社会的・経済的側面」を総合的に理解させている」とが素晴らしい」との意